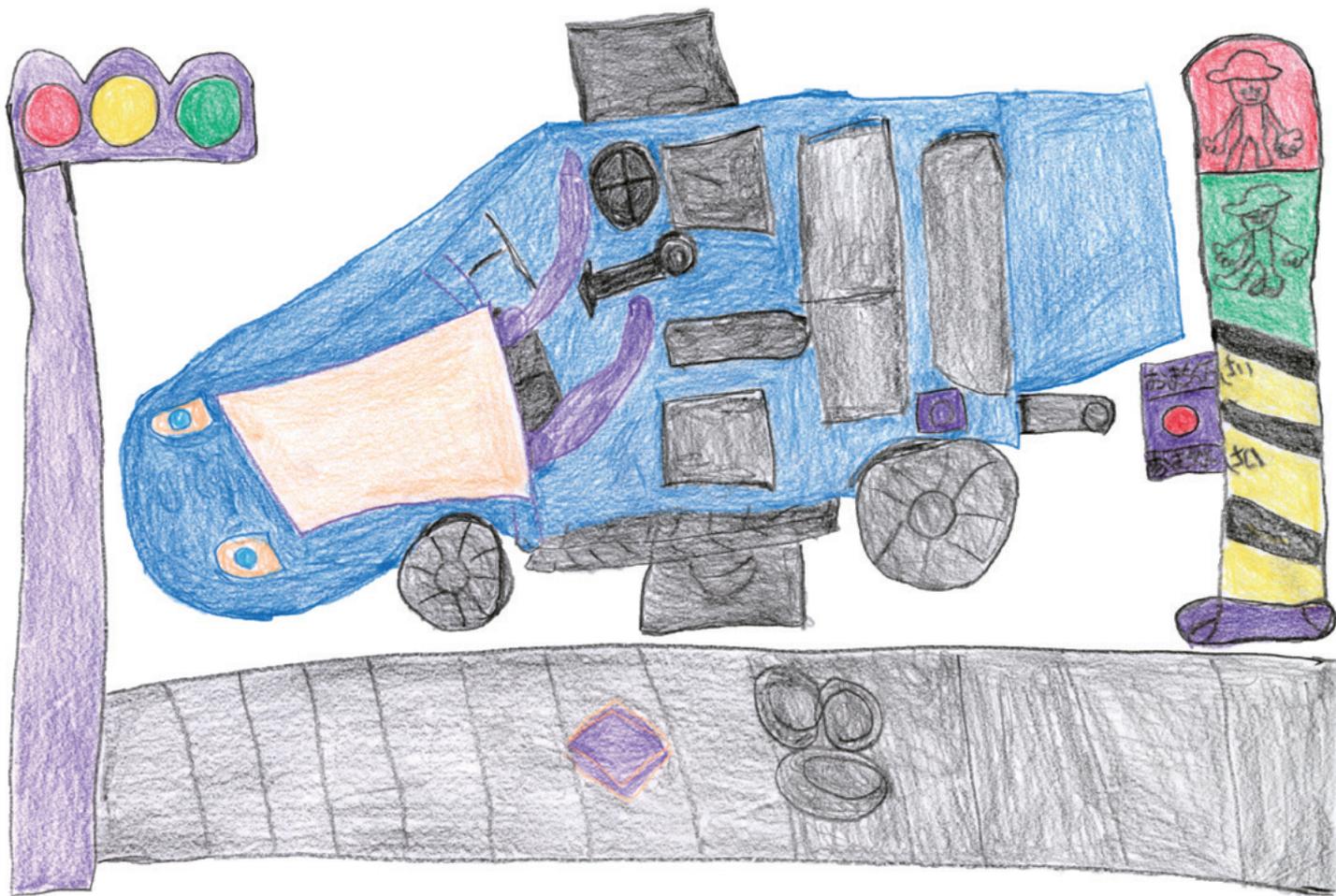




ゆたか福祉会キャラクター
ゆたかめくんとみらいちゃん

障害者の ゆたかな未来をめざして



「車の事故がなくなるように」 ふれあい共同作業所 親川 健一さん
※紹介が10ページにあります。

CONTENTS

- ▶ 私たちの実践 リハビリテーション委員会の活動 P2~3
- ▶ 10.28 職員研修 P4~5
- ▶ 鈴木峯保さんの思いを胸に刻んで P9

2023年12月10日 毎月1回10日発行 一部100円（法人会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます）

発行 / 社会福祉法人ゆたか福祉会 〒457-0852 名古屋市南区泉楽通四丁目5番地3
TEL 052-698-7356 FAX 052-698-7358 <http://www.yutakahonbu.com/>



愛知県ファミリー・
フレンドリー・マーク

ゆたか福祉会

検索

シリーズ 私たちの実践

リハビリテーション委員会の活動 ⑤

健康寿命を延ばす食べて元気にフレイル予防②

食事環境編

はじめに

今回は身体機能の回復、意欲・活力を取り戻していくためのリハビリとして「食事環境編」を報告します。

フレイル予防のため食事量減少による低栄養の防止だけでなく、食に対する意欲を高めるためにも食の楽しさを保障することはとても大切なことです。また、食事は楽しみな時間でもありますが、同時にリスクの高い場面です。安全面に配慮しつつ、食の楽しみを保障する取り組みとして『ふれあい共同作業所』での実践を報告します。

所長としての思い

作業所ではこれまでも食事提供時に様々な工夫をして、誤嚥事故防止に取り組んできました。しかし、対象者の機能測定などは行われず、また安全性にも課題があるものだった。職員から「これまでのやり方で良いのか」という声が挙がり、利用者の命を守るという観点から、「専門職のアドバイザー」を取り入れた支援の実施に向け

て動き出すこととなった。

本来、食事は「楽しみ」の時間であるが、今の食事環境では、非常にリスクの高い時間となっている。「利用者の命を守る」という第一義的な使命が果たせていないという危機感を持って、作業所全体の課題として位置づけ、取り組んでいくこととした。

このような考えを軸として、リハビリ委員会では現状の適切な評価と改善提案をすることで安全で楽しい食事にしていけるよう取り組みを行っています。

作業所全体の食事環境に対する提案

〈食事姿勢〉

・机と椅子の高さ↓人間工学的に適切な高さを計算するだけではなく、円背などその人の特徴も踏まえて高さを提案しています。

・食事姿勢↓食事中は背もたれから背中を離す姿勢を保つ必要があるため、食事は車椅子より座面の

安定する木製椅子の使用を提案しています

〈食器〉

・食べこぼしがある方↓一皿に入れる量を調整すること、反り返りのある介護食器や一般の食器で深みのある物や広くすくい易い物を提案しています。

〈食形態〉

・一口量が多く、噛まずに丸飲みし、ご飯での窒息が心配な方↓ご飯を軟飯に変更することを提案しています。

事例報告

自分で食べたい思いと持っている能力(噛む力)を活かした実践

安全だけでなく、自分で食べたい思いを大事にしながら、食形態や本人が持っている能力を活かして食事が楽しめる時間になるように取り組んでいる事例を報告します。

Aさんは、知的障害、てんかん発作がある方です。職員から「食事を口に詰め込みすぎる」こと、「ムセ

が気になる」ということで相談がありました。ホームでは一口大のおかずを全介助で提供していました。そして作業所では「自分で食べたい」想いを尊重し、おかずを細かく刻み、職員が小さいお椀に2〜3口分ずつに取り分けて、一口量を調整しながら自分で食べていました。しかし、細かく刻んだ食材が口の中や喉に残り、ムセの原因となつていてと考え、以下の提案をしました。水分に関しては、肩の動きに制限があり、頭を後ろに下げ、顎を上げて飲むことでムセていると考えられました。

・刻んだ食材をトロミ餡でまとめ、口の中で本来作られる食塊に近い状態にして飲み込みやすくしました。
・口の中や喉に残っている食物がスムーズに飲み込めるように食事の合間にお茶を促す声掛けをしました。
・レボUコップという介護食器(写真参照)を提案しました。



▲レボUコップを使用しているAさん

さらに安全面に配慮しつつ、本来ご本人が持っている能力（噛む力）を活かした食事形態UPの提案をしています。安全面では「環境（食事形態）」「支援（小皿への取り分け）」両側面で支援がされています。一口量の調整を職員が行う支援は継続し、食事形態をUPすることで、見た目にも美味しい食事を摂っていただけることで、より食事が楽しみな時間になることを目指しています。

＊職員の声

トコミ館でまとめるようになり、食べやすい様子でムセることが減りました。コップも飲みやすい様子で、ムセが減っています。

■落ちて着いて食事を楽しむ

「ことに取り組んでいる実践」「食事姿勢・食器」と「座席配置」に対応した事例を報告します。

Bさんは、知的障害とてんかん発作があり、首下がり症候群のため首にコルセットをつけるようになりました。職員から「誤嚥や、口に入れ込んだまま飲み込まないことが心配」「食事前後にえずいたり、食後に水っぱ

いゲップが多くみられることが気になる」など相談を受けました。

「食事姿勢・食器」

コルセット着用で下を向きにくいので、食べやすさと姿勢の崩れを防止するため以下の提案をしました。
・首を曲げて下を見なくても食事が見えるように、補助台設置を提案しました

・不自然な肩の上りや姿勢崩れ防止のため、補助台に滑り止めをつけて、手や腕を置いて台がずれないようにしました

・お茶が飲みやすくなるように、レボUコップを提案しました

食事台は本人に合ったものを探しています。レボUコップは飲みやすそうな様子が見られており、職員からも「とっても飲みやすそうな様子です」と好評です。

「座席配置」

座席は人の行き来が多い場所でした。周囲が気になり、口に物を溜め込んだまま食事の手が止まったり、周囲の人と関わりとうとする中で食事中に声を出したり、体を前後に揺らすなど落ち着かない様子でした。食事に集中できるように、以下の提案をしました。

・食べる場所を食堂の端の位置に変更しました

・パーティションで囲い、周りが見えないようにしました

刺激が減り、食事介助を行う職員とコミュニケーションをとりながらの食事が可能となりました。また口に溜め込むことが減り、食事時間も短くなり、本人も落ち着いて食事を楽しむことが出来るようになりました。



▲座席配置に配慮して補助台を使い食事をするBさん

＊職員の声

「注意散漫が誤嚥のリスクに繋がるという考えがなかったので新しい発見でした。口に溜め込むのはお腹がいっぱいなのかと思っていましたが、席を変えたことで溜め込むことが減り、食事に集中できていなかったことが要因だと分かりました。」

■おわりに 一緒に

ふれあい共同作業所では「食事が安全にとれるように」と熱心に食事環境の改善に取り組んでいました。そこにリハビリ委員会と連携することで、環境設定や支援を提案し、「利用者の命を守り、楽しい食事時間になる」環境を一緒に作っていただいているのではないかと思います。

今後は他事業所の見学や、調理技術の共有をしていく予定です。それぞれの事業所で行っている取り組みを共有し、今後も良い支援方法を深めていきます。

作業療法士 西森 由里
言語聴覚士 橋絵里子

10/28

職員研修

開催!

今回の研修は、「ゆたか福祉会の50周年を共有し、受け継ぐべき財産を今後につなげる機会」として開催しました。まず、創成期から「ゆたか」と共に歩んできた鈴木理事長の報告と、次にゆたか通勤寮から「34年の事業と運営、実践」について3名の職員から報告を行いました。午後は、障害者家族の実態調査を通して見えてきた現状や課題について、田中先生の講演やシンポジウムの企画から学び、15グループに分かれて討議を行いました。以下、紹介します。

午前企画

理事長報告

鈴木理事長からは45分に渡って様々な提起がありました。

一つ目は、海外で起きている宗教的な困りごとが命を駆け引きに軽く扱われていることに対し、「世界で起きている事を広い視野で思いを馳せる事の大切さ」。

また身近なところで相次ぐ虐待報道や民間経営の食費報道など、信頼を失う同業者の不正行為に対し、「対岸の火事と捉えないで私たちの理念や社会福祉事業にふさわしい行動を」と求められました。そして、準備中である「ゆたか」の

通勤寮報告

第6期から第7期への総合計画の策定について、全職員が「こういう職場にしたい」「こんなことがしたい」という思いを持ち、一人ひとりの創意を活かす計画として進めていきたいと話されました。

開所して34年になる「ゆたか通勤寮」が果たしてきた役割について、

①事業・運営 ②宿泊型自立訓練（旧知的障害者通勤寮の実践）③相談支援事業〜地域定着支援の事業と実践の3点からそれぞれ報告がありました。

①事業・運営

ゆたか通勤寮が「障害者の就労とくらしのネットワークづくり」を

掲げ1989年4月にスタートした。以降、グループホームの建設、アパート移行の支援、地域定着支援との連携などの時期があり、現在までに200名を超える方々を地域へ送り出したこと。

果たしてきた役割として、「発達障害や「愛着障害」を併せ持ち、「社会的重度」とも呼ばれる「若年軽度」の知的障害者の方たちの「地域で自立して暮らしたい」という願いに応え続けてきており「これからも...」ということが話されました。

②宿泊型自立訓練

（旧知的障害者通勤寮）

利用者の特徴がわかる4名の紹介と、そのうち1名の詳しい実践が報告されました。幼少期、虐待をうけ、児童養護施設を経て18歳でゆたか通勤寮に入寮。誰でもぶつかる「自分の人生を自分で決めていく」という課題に苦しみ、失敗を繰り返し、職員との信頼関係構築を基盤に成長を支えた実践でした。

③相談支援事業

〜地域定着支援の事業と実践〜

ゆたか通勤寮を卒業したアパート生活者を中心に、現在24名を支援していること。寮では生活も職場も安定していたが、地域に出たら人

間関係や借金などの問題を繰り返して、3回も通勤寮を利用されアパート生活をしている方の実践が報告がされました。

辛いけど、苦しいけど、繰り返すけど、自分ではどうしようもできない思いを抱えて暮らす方は多く、ゆたか通勤寮には、いつでも助けを求められることができる実家のような場所として、そこにあり続ける事の大事さが語られました。

午後企画

田中先生の講演

佛教大学教授の田中智子先生、北星学園短期大学教授 藤原里佐先生と一緒に共同出版をさせて頂いた「障害者家族の老いを生きる 支える」の出版を記念しての企画でした。



前半は田中智子先生の講演で、第6期総合計画の際に行った家族、利用者、職員の実態調査の報告と併せて障害者家族への支援の課題についてお話いただきました。

印象的なお話として「家族は障害当事者のこと以外の悩みや問題を職員には話していい」こと。家族自身、高齢期を迎える中、自身の悩みや問題を抱え込んでしまう構造があることの課題について語られました。

私たち職員も実感するのは、家族自身が抱えている問題は、障害当事者の陰に隠れて見えにくいということ。また、「ケアの第一義的責任は社会にある」として、社会がもっと障害者、家族への支援を行っていく必要性について語られました。

日本の障害者福祉制度は家族の介護が前提となった制度設計となっていること。高齢期を迎えた障害者家族にとって、こうした制度の在り方自体が深刻な問題になっていると述べられました。同時に、職員が長期的に安定的に働ける社会的条件づくりの必要性を訴えられています。

シンポジウム

後半は、今回の本の執筆者と家族の立場の方に登壇していただき、高齢期家族の支援や現場実態について意見交換を行いました。

家族の発言では「自分たちで子が通える作業所作り運動から、日々の運営など様々な場面で活動してきた。厳しい状況ではあったけど、一緒に問題を共有してくれる職員の存在は大きかった。自分たちも老いの中、今までと同じようには難しいけど、これからも職員にはそういう存在で長く関わってほしい」との意見が印象的でした。

ゆたか福祉会の歴史は、「障害者、家族の願いと共に」が基礎となっています。時代が変わっていく中、変えていかなくてはならない事もあります。同時に変えてはいけないものを改めて教えていただいたように感じました。

今治信一郎



田中先生からの「コメント」

先日の職員研修に参加させていただき、職員の皆さんの熱い思いと語られた内容の深さから、私も元気をいただき、また次に向けての宿題をいただきました。

当日、話をさせていただいた中で、「ゆたか福祉会には言論の自由がある」という趣旨の発言をさせていただいたのですが、それに加えて、タブーを作らない懐の深さと覚悟があるのだと思います。

家族の高齢化、この問題については解決の糸口が容易には見えないため、話すことさえ憚られるタブーが多いような気がします。しかしながら、当日のシンポジウムなどでも職員や家族、それぞれの立場から様々な思いや実践が語られ、今後さらに深めていく必要がある課題が多くあるように思いました。

正解が分からないからこそ、まずは思いや現状を話し合ってみる、そこから出発することの大事さを実感しました。今後ともゆたか福祉会から多くのことを学ばせていただきたいと思います。

研修を終えて

今回の参加者は約130名。特徴は「対面」を意識した研修を企画したことです。

アンケートでは理事長の体調を心配する声や、「率直な現場の姿を交流する場が大切」「シンポジウムやグループ討議など、今までやったことがない取り組みで面白かった」「境田さんの話が一番印象深かった。会場の雰囲気が一つになった感じ。親の願いで職員が動かされる、気持ちが伝播する、久々の感触」「公開講座ならば今後はハイブリッド開催にすれば他県の人に声を掛けやすく参加しやすい。自身が良いので対面のみはもったいない」等、たくさんの方の「声」を寄せて頂きました。

田中先生にお会いした第一声は「ゆたか」には言論の自由がありませんね」という言葉でした。いつも研究者の皆様には背中を押され力を頂くように思います。ありがとうございました。

研修部長 向幸子



暮らしの中に彩りを



8月～
9月

1 泊旅行

◆ゆたか生活支援事業所なるお◆

コロナが5類に引き下げられ、なかまからの希望も大きかったことから、8～9月にかけていくつかのグループに分かれて浜名湖一泊旅行を行いました。



観光は以前、天候不順で叶わなかった遊覧船等に乗って、浜名湖周辺の景色を楽しめました。ホテルでは楽しみにされていたうなぎや会席料理を思い思いに堪能されました。温泉ではホームと違って足をよく伸ばせる大浴場に入り「すごく広くていいね!」と笑顔が見られました。職場のなかまへのお土産も楽しみにされており、「どれを買おうかな」と真剣に考えて購入されていました。

コロナ禍ではなかまも外出する機会が減り、我慢をしてもらうことが多かった日々でした。今回の取り組みで「楽しかった」「また行こうね」という声が多く聞かれ、皆さんが頑張る原動力になったなら幸いです。

ほしざきホーム 小林 美咲

10/13

50周年記念式典

◆みのり共同作業所◆

みのり共同作業所は1973年、ゆたか福祉会として法人格を取得した翌年、身体障害の方でも利用できる作業所としてスタートしました。今年度はちょうど50年目にあたる年という事で、去る10月13日、50周年記念式典を執り行いました。



当日はさわやかな秋晴れとなり、天候もこの大きな節目を祝ってくれたように思います。創立当時から現在も在所されている方は2名です。当日はその方達も含め、皆で作業所の50年のあゆみを写真で見たり振り返りました。また合間ごとに利用者さんや、来賓の方々にも当時の記憶を辿りながら、思い出を語っていただきました。

作業所内での運営で手作り感のあるささやかな形での催しでしたが、改めて「みのり」が地域に根付き、様々な方々に支えられながら成り立ってきたことを実感する機会となりました。参加者一同、これからの歴史を紡いでいく上で、新たな気持ちで団結を深める「会」となりました。

佐竹 郁哉

10/22

久しぶりの再会を楽しみながら

◆南障会研修旅行◆

10月22日(日)、気持ち良い秋晴れの中、4年ぶりの南区障害者関係団体連絡会(南障会)の研修旅行が日帰りの形で行われました。ゆたか関係者以外も含めた15団体71名の皆さんと『はままつフルーツパーク』、『浜名湖遊覧船』を回り、交流を深めてきました。



あちこちで「久しぶり!」と元気な声が飛び交う中、リフト付きも含めた2台の観光バスで出発。現地では、おいしそうなお土産を探しながらの収穫体験、ホテルでの豪華なランチ、そして遊覧船ではカモメの餌やり等を楽しみました。

一日を通し、多く聞かれたのは「来年は泊りで!」の声。今回は日帰り旅行という事で慌ただしさも感じられました。来年はゆったりと一泊で交流を深めたいと思いました。

トライズ 佐藤 正章(南障会事務局長)



SDGsの目標をめざそう

～はじめた学びや取り組み～

その7

リサイクル港作業所 事業所内3Rの取り組み

リサイクル港作業所は「名古屋市港資源選別センター」内で、空きびんと空き缶の選別作業（名古屋市業務委託）を行っています。

SDGsの言葉が使われるはるか以前から、リサイクルに従事し、『地球を守る仕事』と肌身で感じ、30年間続けてきました。異物を手選別で取り除き、びんと缶をそれぞれ再資源化事業者に引き渡すところまでが私たちの仕事です。

事業用大規模建築物事業者として、廃棄物管理責任者を置き、減量計画書を提出、毎年数値報告しています。今年度は事務所で発生する「紙資源の減量」を目標にしました。びん・缶と同じレベルで紙選別をすれば3Rを実現できると考えました。3Rとは、リサイクル（再利用）、



リユース（再利用）、リデュース（廃棄物の発生抑制）です。びん選別の時に聞いた「捨てればごみ、集めれば資源」を職員集団でどこまでやるか、実験です。

減量のポイントは、ペーパーレス（文書の電子化）と古紙の管理、パソコン一人1台の導入。会議資料はデータ化し業務効率に繋がりました。古紙置場は整理整頓。ごみになる紙を買わない（リデュース）。片面使用のコピー紙は裏面使用（リユース）。古紙（新聞・段ボール・雑誌・雑紙等）は種類別に分別し古紙業者へ渡す。（紙原料としてリサイクル）。

以上を全職員で行い、美化当番が資源重量を計測します。今一番の効果は、可燃ごみに混入していた紙資源が減ったことです。 萩原千秋

日本へようこそ!

広報9月号では、国際セミナーのご報告をさせていただきました。これまでにこの提携によるフエ科学大学の"CARE WORK IN JAPAN"プログラム履修者として、1期生・2期生が来日し一緒に働いています。

そして、この10月に3期生が来日しましたので、ご紹介します。

名前 ファン ホアン フイ

趣味 サッカー（小学生から大学生まで続けた）
カラオケ（中島美嘉の「桜色舞うころ」のベトナム語版も歌えます）

好きなもの 犬が大好き。ベトナムの実家にも愛犬「ミロみ」がいます。

好きな食べ物 刺身。サーモン、イクラが好き。 ※コムタムとは、味付けして焼いた豚肉と目玉焼きをご飯に乗せたワンプレート料理
ベトナム料理ではコムタムが好き

日本に来て驚いた事 車が左走行でベトナムとは逆。道にゴミがなくきれい。

日本でやってみたいこと いろんな所へ旅行に行っ、きれいな景色と美味しい料理を楽しみたい!

現在は、日本語学校へ通いながら、「まーぶる」で働いています。



一緒に働いている職員からのコメント
いつもニコニコしていて、朝早くても毎日頑張っています。分からないこと等、積極的に聞いてくれるので、仕事を覚えるのが早いです。すぐに一人でできるようになると思います。期待しています!

第22回

障害者問題全国交流会 開催

理事長 鈴木清覺



10月19日～20日に、名古屋マリオットアソシアホテルにて、中小企業家同友会全国協議会の主催による、第22回障害者問題全国交流会（障全交）が開催されました。この交流会は愛知・名古屋では、1998年の第9回以来25年ぶりの開催となりました。この全国交流会には、45都道府県から600名もの同友会会員

が参加し、活発な交流がなされ大きな成果が得られました。

中小企業家同友会とゆたか福祉会とは発足当時から深い関係があります。1968年企業の一角で「障害者の働く場を」との切実な要望に応え、ゆたか福祉会の前身として「名古屋グッドウィル工場」が設置されました。しかしこの事業は残念ながら1年も経たないで、親会社の倒産によって立ち行かなくなり、当事者・家族・職員は、再建にむけて運動に立ち上がり、地域や関係団体に働きかけます。

この運動の過程で協力の要請に応じて中心となり努力頂いたのが、当時の名古屋中小企業家同友会のみなさんでした。この協力によって短期間に再建が実現します。まさに、ある意味ゆたか福祉会は「同友会立」といってもいい歴史です。

その後、こうした経過も踏まえ、社会福祉法人化の時には、初代の理事長を同友会で活躍されていた今井保氏にお願いした経緯があります。この歴史を踏まえて、今回「障害者雇用運動発祥の地、愛知」として全国に参加が呼びかけられました。また、この障全交の準備はもとより、愛知同友会の障害者自立応援委員会を長年にわたってリードしてきた杉浦昭男氏が直前に亡くなったこともあり、杉浦氏の追悼集会にもなりました。

障全交では、全体会とともに課題別の分科会に分かれて活発な意見と経験交流がなされました。そんな中



で私が参加した分科会「私たちが楽しく働く場所がありますか？」では、神奈川・広島・愛知の同友会運動と障害者との関わりが報告、討議されました。

討議を通して感じたことは、単に生産性や役に立つか立たないかだけでなく、障害者が働く中で人間的な成長・発達をしていくこと、そのことを通して従業員が変わっていく実践がたくさん報告されました。まさに、杉浦氏が何時も言っていた同友会が掲げる「人間尊重の経営の一丁目一番地は障害者問題だ」との訴えが共感を持って受けとめられたといえます。



鈴木峯保さんの 思いを胸に刻んで 一周忌を終えて



ご家族からのメッセージ

次女 大場陽子

早いもので、父が亡くなって1年が経過しました。9月に一周忌と家の墓に納骨を行いました。

そして、10月19日に生前希望していた「ゆたか福祉会の共同墓地『なごみの塔』」に職員さんにも参列していただき納骨させていただきました。また、迎えることがで

きなかった80歳の誕生日に、父が帰りがたっていた生まれ故郷である長崎県平戸市の海に散骨してきました。晴天に恵まれ、ニコニコと生前のように笑顔で風に乗る、平戸の地に帰っていったと思います。

本当にあつという間に過ぎ去った日々でした。仕事、プライベートも含めて「あれを言っておかなくちゃ」「これを聞かなくっちゃ」と思い、ふと我に返り「もういいんだ」と。夢に見る日もありません。もっと話したかったこと、聞きたかったこと、教えてほしかったこともたくさんあります。

父本人は自分のやりたいことをやり、周囲の方々のご協力もあり、成し遂げたことも数知れず。しかし、もっとやりたかったこともあったかと思えます。最期の時期まで「人の役に立ちたい」と言っ



ゆたか福祉会の職員第1号である鈴木峯保さんがご逝去され、早いもので1年が過ぎました。「福祉村のお墓に入れて欲しい」と生前語っていた峯保さん。そのご遺志を引き継かれ、12月に開催した「徳ぶ会」の際にも、ご家族から改めて共同墓地への申し込みの意向がありました。「分骨は一周忌がすんだ秋以降で…」ということと、また相談させて頂くことになりました。そして10月19日、秋晴れの中、分骨したお骨が参列した全員の手で「なごみの塔」へ納められました。

今年10月に行われた新管理職研修で、講師の倉地所長はゆたか希望の家における2022年度事業計画後半期方針を資料として配布されました。「目的・目指すもの」「後半期重点課題」等からなるA4サイズ1枚の方針には、以下のような重点課題が掲げられていました。

- ・ 一番権利を侵害されているのは仲間
- ・ なぜ、仲間がそんな行動をするのか考えなくてはいけない。仲間のせいにするのは職員の努力不足
- ・ 鍵は職員の心にも鍵をかける

(峯保さんの言葉)

これからも峯保さんの優しい笑顔を胸に、揺らぎのない信念から紡ぎだされた、たくさんの言葉を次世代へ繋ぎながら、仕事に向き合っていきたいと思えます。

理事・共同墓地管理委員

向幸子



10月

- 3日(火) 常勤及びパート職員研修
- 11日(水) コミュニケーション研修
- 13日(金) 新所長研修
- 16日(月) 事業運営推進会議
- 17日(火) リサイクルみなみ作業所
名古屋市指導監査・実地指導
- 19日(木) 事務事業推進委員会 /
第22回障全交in愛知(～20日)
- 24日(火) 広報・ホームページ編集委員会
- 25日(水) 所長会議
- 28日(土) 職員研修
- 30日(月) 研修部会議

一般寄附(11月)

名古屋福祉支援チャリティーゴルフ
NPO 法人香流川をきれいにする会

順不同敬称略

賛助会員新規加入者・更新者ご芳名一覧

(11月8日～11月14日 手続き分) 順不同敬称略

佐藤よし子
當間 弘子



表紙の作者紹介

「車の事故がなくなるように」



ふれあい共同作業所 親川 健一さん

親川さんは「にこにこたんぽぽ班」で、毎日タラの串さしの仕事に取り組まれています。丁寧に仕事をされ、完成したタラの串はとてもきれいです！

いつもなかまや職員の体調を心配して下さり、お休みした次の日には必ず「大丈夫？無理しないでね」と声をかけて下さるとも優しい方です。

今回の作品は「SDGsのデザイン募集に参加しよう！」と取り組んだ絵です。学習会を行った後に、一人ひとり大事にしたいことを選び、描いていただいた1枚です。「事故が多いから、事故がなくなしてほしい」という思いを込めて描かれました。

作業同様、色のぬり方もとても丁寧で、配色も親川さんらしい配色です。素敵な作品に仕上がりました。

広報・491号

2023年12月号(2023年12月10日発行)
定価1部100円
法人協力会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます
発行・編集 / 社会福祉法人ゆたか福祉会
印刷 / 株式会社東海共同印刷

法人協力会費・賛助会費・寄附金など福祉会への申し込み、ご送金は

法人協力会費 = 年間1口6,000円、
賛助会員(個人1口3,000円、企業団体等1口5,000円)

●銀行口座 名義はいずれも社会福祉法人ゆたか福祉会

・三菱UFJ銀行 柴田支店 普通預金 291-884
・中京銀行 鳴海支店 普通預金 150-425

●郵便振替口座 00820-8-54026 社会福祉法人ゆたか福祉会

お詫びと訂正

広報11月号掲載の内容に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

P4 うたごえ交流会 タイトルの日付 誤：9.12 正：9.13

P5 SDGs 応援作品 ポスター賞氏名 誤：永井一雄さん 正：永田一雄さん

ゆたか福祉会 事業一覧

一人ひとり皆主人公。
みんなの夢が
息づく場所です！

法人本部

法人本部 ☎ 052-698-7356
ゆたか障害者福祉研究所

名古屋事業本部

ゆたか作業所(南区) ☎ 052-692-3531
みのり共同作業所(南区) ☎ 052-612-6237
リサイクルみなみ作業所(南区) ☎ 052-612-5391
トライズ(南区) ☎ 052-825-4022
ふれあい共同作業所(南区) ☎ 052-613-2479
ワークセンターフレンズ星崎(南区) ☎ 052-824-4450
なるみ作業所(緑区) ☎ 052-878-6921
ゆたか希望の家(緑区) ☎ 052-878-6912
つゆはし作業所(中川区) ☎ 052-353-3175
リサイクル港作業所(港区) ☎ 052-382-1933
みらいろ(港区) ☎ 052-382-3200

相談支援事業本部

緑区障害者基幹相談支援センター
障害者相談支援センターみどり(緑区) ☎ 052-892-6333
地域活動支援センターしかやま(緑区) ☎ 052-892-6006
ゆたか相談支援事業所どうとく(南区) ☎ 052-692-3539
相談支援事業所ゆたか通勤寮(南区) ☎ 052-611-7789
相談支援事業所ゆたか希望の家(緑区) ☎ 052-878-8776
ゆたか相談支援事業所あおなみ(港区) ☎ 052-382-1991

尾張事業本部

あかつき共同作業所 ☎ 0568-25-0171
あかつきヘルパーステーションはなキリン
ゆたか生活支援事業所尾張
ケアホーム徳重 ☎ 0568-22-8587
ケアホーム北野 ☎ 0568-68-8844
ケアホームあかつき ☎ 0568-54-2700

福祉村事業本部

キラリンとーぷ ☎ 0536-65-0370
デイサービスなぐら【高齢】
生活サポートセンター名倉【相談】 ☎ 0536-65-0372

名古屋高齢事業本部

ケアサポート宝南
デイサービス宝南 ☎ 052-618-0205
グループホーム宝南の家 ☎ 052-613-5081
ケアサポート宝南【相談】 ☎ 052-613-6055

地域支援事業本部

ゆたか通勤寮 ☎ 052-611-7781
ライフサポートゆたか【ヘルパー事業所】 ☎ 052-825-4404
ゆたか生活支援事業所なかがわ
つゆはし板倉ホーム ☎ 052-354-0678
上脇ホーム ☎ 052-352-3266
あおなみホーム ☎ 052-355-9339
ホームみらい ☎ 052-383-5580

ゆたか生活支援事業所みなみ

グループホーム エール ☎ 052-619-6052
エールI・エールII
ホームみのり ☎ 052-612-9480
元塩ホーム ☎ 052-614-4691
サテライト元塩 I・II
第二八光荘 ☎ 052-612-3986

地域生活支援拠点事業所まーぶる

まーぶるホーム ☎ 052-691-0161

ゆたか生活支援事業所かさでら

第1かさでらホーム ☎ 052-618-7171
第2かさでらホーム
ひいらぎホーム ☎ 052-611-6955
粕島ホーム ☎ 052-824-9590
ひろめホーム

ゆたか生活支援事業所なるお

ほしざきホーム ☎ 052-825-4359
ゆたか鳴尾寮 ☎ 052-613-3021
鳴尾ホーム ☎ 052-611-3588
第一八光荘 ☎ 052-614-4345
わかばホーム ☎ 052-614-2785
あさがおホーム ☎ 052-613-5606

ゆたか生活支援事業所みどり

大清水ケアホーム ☎ 052-876-8820
なるみホームひまわり ☎ 052-893-7575
かきつばたホーム ☎ 052-680-7777
みずひろホーム ☎ 052-715-8336

ゆたか生活支援事業所あつた

第1ホーム白鳥 ☎ 052-671-0067
第2ホーム白鳥
第3ホーム白鳥
第1ゆたかホーム太陽 ☎ 052-691-4004
第2ゆたかホーム太陽
明治ホーム

その人らしく 働く 暮らす

Vol.114

仲間

「穏やかな生活を支えて」

ゆたか生活支援事業所ながわ

野崎 春樹さん



野崎さんは平成3年
にあかつき作業所に入
所され、その後リサイ
クル港作業所に所属さ

れました。そして同時期に、ホームでの生活が始まりました。先天性ろうあ症のため耳が聞こえないですが、そんなことを感じさせない程、ジェスチャーや写真などを使ってコミュニケーションを取って下さいます。

今年で70歳を迎えられますが、現在もリサイクル港作業所に通っていらっしゃいます。年齢や体力面なども考え、月に数回作業所をお休みする日を作りながら、のんびりとされています。

野崎さんは趣味や好きなことがたくさんあります。中日ドラゴンズやスポーツ観戦、旅番組や可愛い動物など様々です。特に休日の外出を楽しみにされており、毎月行き先を決めるときは雑誌や広告、新聞などを持つ

てきて「ここに行きたい」と身振り手振り、嬉しそうに教えて下さいます。

流行にも敏感で新しく出来た商業施設や、地域のお祭りなど様々な情報をご自身で見つけられます。その意欲と笑顔に職員が笑顔や元気をもらっています。

野崎さんの好きなこと・やってみたいことを大切にしながら、ホームでの生活を送ることが出来るようにこれからも支援していきたいです。

片岡 由加梨



ホームで食事作り

職員

「福祉職としての

管理栄養士を目指して」

ゆたか希望の家

富永 安理沙



入職して13年目。
「その人らしく」の
原稿は、入社5年
目、生活支援員時

代に書いており2回目となります。7年が経った今は、職種も立場も変わって、管理栄養士・副所長として働いています。

希望の家には他にも3人の副所長がいるため、私は主に厨房部門で打ち合わせ等に参加しています。厨房部は、正規職員の調理主任と栄養士2人、短時間パート職員10人で運営している状態です。そんな中で皆さんに甘えながら、厨房業務は週1〜2回程度、実務を基本に働いています。実務の主体は管理栄養士の仕事で、3年前から管理栄養士として働き始めました。

当時は管理栄養士という職種自体がゆたか福祉会で初であり「栄養士と何が違うのか」から始める事となりました。希望の家では、栄養士は「給食管理」「管理栄養士は「健康管理」が主体であると使い分けています。

そのため看護師やリハビリ職と話す事が多いですが、間違えていけないのは「医療職が揃っていても、こは病院ではなく、家、である事」です。

個別支援計画を基に、その人へのアプローチを考えていく必要があります。支援員を約9年やってきた自分だからこそ出来る、仲間の思いに寄り添った健康管理とは、食事支援とは何か、を原点にしています。

高齢化や障害の重度化で食べられなくなる仲間が増えてきました。最後まで「食事」を楽しめるよう、多職種連携の一員として、今後も食と健康の分野で仲間を支えていきたいと思っています。



絵カードを使いながら、水分量の確認